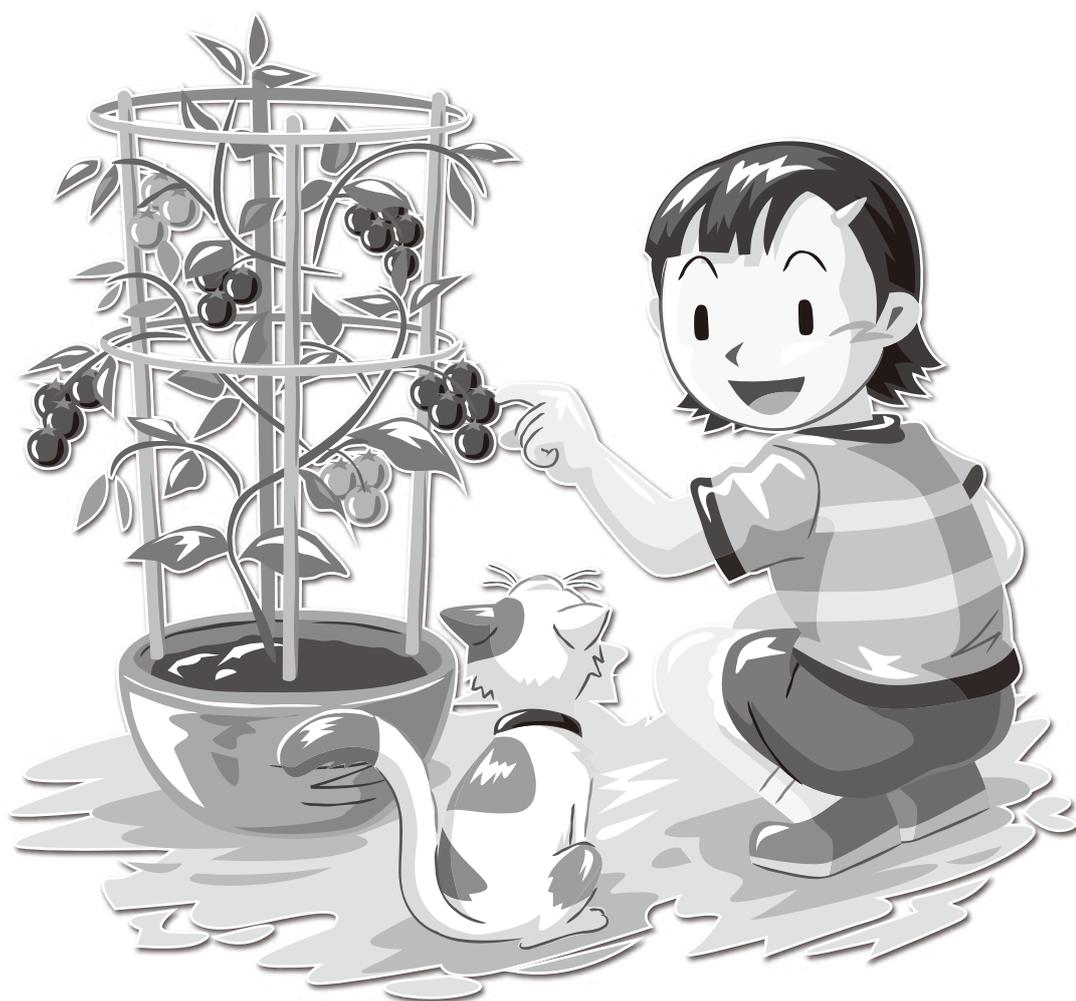


福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業

# 平成26年度 活動集



ふれあいネットワーク



社会福祉  
法人

甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

# は じ め に

近年、福祉をめぐる情勢は、少子高齢化の急速な進展や核家族化の進行などにより、家庭内の支え合いや世代間の交流、更に地域における連帯感の希薄化など、様々な課題をもたらしており、福祉教育の重要性は高まってきております。

福祉教育には、「子どもの豊かな成長」と「地域福祉の推進を図る」という2つの側面がありますが、子ども達に対する福祉教育の推進は、社会全体として取り組んでいかなければなりません。

甲府市社会福祉協議会では、学校が主体となって実施する「福祉ボランティア活動実践校事業」、地区社会福祉協議会を主体として実施する「地域ぐるみボランティア活動推進事業」を支援しています。実践校事業につきましては、平成24年度から3年間で甲府市立の小・中・高等学校のすべてを指定校にさせていただき、子どもたちの心豊かな人間形成を図るための事業を推進してまいりました。

この度、平成26年度「福祉ボランティア活動実践校事業」及び「地域ぐるみボランティア活動推進事業」の取り組みをまとめた「活動集」を作成いたしましたので、今後の活動の一助としていただければ幸いです。

この活動にご支援、ご協力いただきました関係者及び団体の皆様方に心から感謝を申し上げますと共に、今後とも温かいご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成27年7月

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会

会 長 佐 藤 健

# 目 次

甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業実施要領 ……	1
福祉ボランティア活動実践校事業 指定校 一覧 ……	3

## 【平成26年度福祉ボランティア活動実践校】（五十音順）

① 甲府市立朝日小学校 ……	4
② 甲府市立北新小学校 ……	5
③ 甲府市立貢川小学校 ……	6
④ 甲府市立中道北小学校 ……	7
⑤ 甲府市立中道南小学校 ……	8
⑥ 甲府市立羽黒小学校 ……	9
⑦ 甲府市立舞鶴小学校 ……	10
⑧ 甲府市立上条中学校 ……	11
⑨ 甲府市立北中学校 ……	12
⑩ 甲府市立笛南中学校 ……	13
⑪ 甲府市立富竹中学校 ……	14
⑫ 甲府市立南西中学校 ……	15
⑬ 甲府市立西中学校 ……	16

甲府市社会福祉協議会 地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領 …	17
------------------------------------	----

## 【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

相川地区社会福祉協議会 ……	19
甲府市ボランティアセンターの紹介 ……	24
甲府市ボランティアセンター事業の紹介 ……	26
福祉講話講師の紹介 ……	27
高齢者疑似体験セットの紹介 ……	28

# 甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実 施 要 領

## 第1 目的

この要領は、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うため、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を行う福祉ボランティア活動実践校事業の実施について、必要な事項を定める。

## 第2 実施主体

実施主体は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）とし、次のとおり活動を行う。

## 第3 事業

- (1) 「福祉ボランティア活動実践校」（以下「実践校」という。）相互の連絡調整や情報交換を図るための「連絡会議」の開催
- (2) 事業推進に必要な資料、情報の提供
- (3) 事業の取り組み内容の公開（ホームページ等）
- (4) その他事業の効果的な推進を図るために必要なこと

## 第4 実施の期間

事業の期間は、平成24年度から平成26年度までとする。

## 第5 実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校並びに高等学校とし、事業期間中一度に限り指定を受けるものとする。

## 第6 助成金

実践校への助成金は、市社協の予算の範囲内で、1校につき5万円を限度とする。

2 指定校への助成は、別に定める事業計画による。

## 第7 助成金の申請

助成金を受けようとする実践校は、次の書類を市社協会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第1号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書（第2号様式）

## 第8 実践校の活動

実践校は、目的達成のためにそれぞれの地域及び実践校の実情に合わせて、別紙「活動の例示」を参考にした活動を行う。

## 第9 実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を市社協会長に報告しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第3号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第4号様式）
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第5号様式）
- (4) 福祉ボランティア活動実践校事業に関わる領収書

## 附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

## 附 則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

## 別紙「活動の例示」

### ○広報・啓発活動

- ・講演会、上映会、展示会等の開催
- ・学校新聞等の作成、配付及びホームページへの掲載

### ○調査・研究活動

- ・ねたきり高齢者調査、まちづくり点検活動、自然環境調査、災害時等に関する地域環境調査

### ○体験学習等を目的とした実践活動

- ・小地域ネットワーク活動への協力
- ・福祉施設等への慰問・交流活動
- ・地区社会福祉協議会やボランティア団体等地域内の社会福祉関係機関・団体との交流活動
- ・体育祭、文化祭等学校行事への高齢者、障がい（児）者の招待
- ・地域と連携した奉仕活動
- ・国際及び環境問題への取り組み
- ・福祉講話の実施
- ・高齢者疑似体験セット、車椅子、白い杖等福祉体験用具の活用
- ・花、野菜の栽培及び食育の学び
- ・古切手及び牛乳パック、ペットボトルキャップ等の収集

### ○甲府市社会福祉協議会（甲府市ボランティアセンター）事業等への参加

- ・ふれあいチャレンジフェスタ、ボランティア交流会・ボランティア博、ボランティア養成講座、赤い羽根共同募金への協力等

### ○実践校等相互の交流

### ○その他、社会福祉に関する活動

福祉ボランティア活動実践校事業 指定校【平成24年度～26年度実施】

No	学 校 名	指 定 年 度		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
1	善 誘 館 小 学 校	○		
2	山 城 小 学 校	○		
3	大 国 小 学 校	○		
4	千 代 田 小 学 校	○		
5	新 紺 屋 小 学 校	○		
6	北 東 中 学 校	○		
7	北 西 中 学 校	○		
8	城 南 中 学 校	○		
9	甲 府 商 業 高 校	○		
10	大 里 小 学 校	○		
11	甲 運 小 学 校	○		
12	新 田 小 学 校	○		
1	池 田 小 学 校		○	
2	石 田 小 学 校		○	
3	湯 田 小 学 校		○	
4	伊 勢 小 学 校		○	
5	国 母 小 学 校		○	
6	東 小 学 校		○	
7	相 川 小 学 校		○	
8	千 塚 小 学 校		○	
9	東 中 学 校		○	
10	南 中 学 校		○	
11	里 垣 小 学 校		○	
12	玉 諸 小 学 校		○	
1	貢 川 小 学 校			○
2	中 道 南 小 学 校			○
3	中 道 北 小 学 校			○
4	北 新 小 学 校			○
5	羽 黒 小 学 校			○
6	舞 鶴 小 学 校			○
7	朝 日 小 学 校			○
8	西 中 学 校			○
9	富 竹 中 学 校			○
10	南 西 中 学 校			○
11	笛 南 中 学 校			○
12	上 条 中 学 校			○
13	北 中 学 校			○
	合 計	12	12	13

# 【福祉ボランティア活動実践校事業】

## 1 甲府市立朝日小学校

### 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	愛校作業、あいさつ運動、ボランティアの方による読み聞かせ	11月	歳末助け合い運動(タオル・石けん収集)
H26.6.18	親子クリーン作戦	12月	赤い羽根共同募金
11.5	視覚障がい体験、盲人用杖体験、高齢者体験(4年生)	H27.1月	書き損じ葉書・古切手収集
		2月	高齢者との交流(3年生)

### 2 取り組み事例

#### (1) 視覚障がい体験

視覚障がい者の方々が使っている物に実際に触れ、視覚障がい者の方々にとって使いやすい物があることを知ったり、視覚障がい者の方々の気持ちを考えたりすることができました。

<児童の感想>

- ・目が見えない人は大変なんだということが分かりました。
- ・目が不自由な人の気持ちがわかりました。

#### (2) 盲人用杖体験

アイマスクや杖を使って歩く体験により、目の見えない方々の大変さや苦勞を知ることができました。

<児童の感想>

- ・目が見えないというのは、真っ暗で大変なんだと知りました。
- ・初めて杖を使いました。やってみたらすごく難しくてびっくりしました。

#### (3) 高齢者体験

高齢者疑似体験用具を身につけ、実際に歩いてみることで、高齢者の方々の歩く時の大変さを知ることができました。

<児童の感想>

- ・腰が曲がって歩きにくかったです。
- ・毎日腰が曲がっているというのは大変だと思いました。



### 3 一年間の評価と課題

年間を通して、福祉教育活動を計画的に行うことができました。児童会活動では、全校児童が意欲的にボランティア活動を行えるようになりました。視覚障がい者や高齢者の方々の体験を通して、思いやりの気持ちを育むことができました。今後も教育活動全体を通して福祉教育を充実させていきたいと思ひます。

## 2 甲府市立北新小学校

### 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動、ボランティア活動（古切手・書き損じ葉書・ペットボトルキャップ・タオルなどの収集、募金活動）	10.10	ふれあい花づくり
H 26.5.2	交通少年団結団式	11.6	ふれあい花づくり
7.9	尚古園訪問（ふれあい花づくり）	11.23	青少年美化活動参加
8.23	PTA 奉仕作業	12.5	福祉プラザ見学（4年生）
		12.10	福祉講話（4年生）
		H 27.3.11	尚古園訪問（ふれあい花づくり）

### 2 取り組み事例

本校では学校教育目標の中に「思いやる心を持つ子ども」を掲げ、特別活動や総合的な学習の時間、学校行事などで福祉教育に取り組んでいます。特に地域の方々や老人クラブの方々との交流活動に積極的に取り組んでいます。

#### （1）ふれあい花づくり

児童と老人クラブの方々が、一緒に土づくりをしたり、花植えの作業などを行い、交流を深めました。また、育てた花は高齢者の方々や児童が持ち帰り、地域の公民館や自宅などに植えました。その他、福祉プラザや交番・児童館・郵便局や学校周辺の施設などを訪問し、花を贈り、地域の美化に努めました。



#### （2）福祉講話

4年生では総合的な学習の時間に福祉の学習に取り組んでいます。その学習の一環として、視覚障がい者の広瀬さんをお招きし、福祉講話を行いました。講話では、学校までどのようにして来たのか、普段の生活はどうしているのかなどについて話していただきました。また、目の前で点字をすらすらと読んだり、一緒にスルーネットピンポンをして交流し、視覚障がい者への理解を深めました。



#### （3）尚古園との交流

今年度、二度にわたって児童が老人ホームの尚古園を訪問し、入所者の方々と交流を深めました。美化委員会がふれあい花づくり活動の一環として、入所者と一緒に園内で花植えを行いました。二度目には計画委員会が全校で収集したタオルや石けんなどを渡したり、美化委員会と計画委員会が入所者と一緒に園内で花植えを行いました。



### 3 一年間の評価と課題

視覚障がい者の方や尚古園の入所者の方々との交流や福祉プラザの見学などを通して、子ども達は福祉ということについて様々な角度から考えることができました。また、ふれあい花づくりでは自分達が育てた花が地域で咲く様子を見て、達成感を感じています。今後も体験的な活動を通して、子どもたちのこころを揺さぶる工夫を教育活動の中に取り入れていきたいです。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	古切手・書き損じ葉書・ペットボトルキャップ・牛乳パック収集活動、あいさつ運動	11月	赤い羽根共同募金、歳末助け合い運動
H 26. 10. 22	福祉講話（4年生）	11. 7	福祉講話（4年生）
		H 27. 2月	タオル・石けん収集
		2. 23	社会福祉施設「ホープステーション」訪問

## 2 取り組み事例

## (1) 児童会活動

児童会の「助け合い活動」の一環として、古切手・書き損じ葉書・ペットボトルキャップ・牛乳パックの収集活動に全校で取り組んでいます。また、毎年地域にある社会福祉施設「ホープステーション」を児童会本部役員が訪問し、全校児童に呼びかけて集めたタオルと石けんをプレゼントし、交流を行っています。



## (2) 福祉講話

4年生の総合的な学習では、「手を取り合って」のテーマで学習に取り組み、10月と11月に講師を招いて福祉講話を行いました。

1回目は、国語で学んだ点字について、点字のボランティアをしている方2名を講師として招き、点字の基本的な打ち方を教えていただき、簡単な点字を読んだり、打ったりしました。2回目は、盲導犬について学習しました。日本盲導犬協会の訓練士と盲導犬が来校して、講演を聴く機会を設けました。視覚障がいの方との接し方や盲導犬の役割などを、具体的に説明していただき、実際にアイマスクをして盲導犬と一緒に歩く体験もしました。



2つの福祉体験を通して、子どもたちが障がいについて正しく理解することができ、温かい気持ちで助け合おうとする気持ちが高まってきました。



## 3 一年間の評価と課題

今年度も、年間を通して様々な福祉活動に取り組むことができました。児童会中心の活動と学習としての福祉講話などの体験活動を継続して行うことで、子どもたち一人一人に「助け合いの心」、「思いやりの心」を育んでいきたいと思えます。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	あいさつ運動、花いっぱい運動、 ペットボトルキャップ・牛乳パック収集	10.16	福祉講話（3・4年生）
H26.6.2	親子クリーンアクション	11.7	地域施設内の落ち葉拾い （縦割り集会活動場所）
6.3	美化委員による花の苗植え （10・12・3月にも実施）	12.19	グループホーム「えがお」訪問（4年生）
9.1	「敬老の日」の手紙（3・4・5・6年生）	12.22～	募金活動、書き損じ葉書・古切手収集

## 2 取り組み事例

## (1) 児童会活動

児童会本部や美化委員会、給食委員会、ボランティア委員会を中心に、年間を通して、あいさつ運動、花いっぱい運動、牛乳パックやペットボトルキャップ収集などの活動を行ってきました。特に今年度は、ペットボトルキャップの収集を低学年・中学年・高学年チームにして取り組み、競い合っ  
てたくさん集めることができました。



## (2) 福祉講話

10月には、視覚障がい者の市瀬英子さんをお招きして福祉講話を行いました。盲導犬オーヴちゃんを同伴して来校されたので、いつもどのように歩いたり、指示をしたりして生活しているのかを実際に見せていただきました。また、12月にはボランティア活動として、4年生が地域のグループホーム「えがお」を訪問しました。サンタクロースに扮して高齢者の方々に手作りの贈り物をしたり、一緒に歌を歌ったりしてふれあうことを楽しんで活動してきました。



## 3 一年間の評価と課題

毎年、児童会活動で行っている様々な取り組みは、自分から進んでボランティア活動をしようとする意欲となり、全校の子どもたちに浸透してきています。

地域の方の読み聞かせ活動や地域パトロールなどにより、ボランティア活動への理解や関心を高めることが少しずつ出来てきています。また、福祉講話を通して、障がいを持っている方とふれあうことで、自分たちにもできるボランティアについて考える時間を持つことができました。

今後も学校や家庭、地域が連携し、子どもたちが豊かな心や共に生きる力を育む福祉教育の実践の場として取り組みを継続していきたいと考えています。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ペットボトルキャップ収集（児童会）	12. 10	麦の家（障がい者福祉施設）訪問（6年生）
H 26. 11. 17	福祉講話（4年生）	12. 24	保育所訪問（1・2年生）
11. 19	中道デイサービスセンター訪問（5年生）	H 27. 2. 10	保育所訪問（3年生）
12. 1～12. 5	歳末助け合い活動（児童会）	2. 12	新入学児一日入学での交流（1・2年生）

## 2 取り組み事例

## (1) 福祉講話

4年生の総合的な学習で福祉講話を行いました。初めに点字の説明をしていただき、その後、実際に一人ひとりが点字器を使って点字に挑戦しました。初めての体験でしたが、もっと打ってみたいという子どもたちの声が聞かれました。実際に体験することで点字についての知識を深め、今後の活動へとつなげることができました。



## (2) 中道デイサービスセンター訪問

5年生の総合的な学習で、「誰もが暮らしやすい町をつくろう」をテーマに学習に取り組みました。具体的な取り組みとして、高齢者を知り、どのように接したら良いか、どうしたら喜んでいただけるかを考える活動を行いました。最初は緊張していた子どもたちでしたが、だんだん慣れてくると会話も弾み、とても和やかな交流会になりました。



## 3 一年間の評価と課題

今年度は、児童会活動と総合的な学習を中心に福祉活動に取り組みました。総合的な学習の時間に合わせて3年生は保育所、5年生はデイサービスセンター、6年生は障がい者福祉施設を訪問しました。交流を通して、相手の立場になって考え、行動することの大切さを理解し学ぶことができました。今後も継続して取り組んでいくことで「思いやりの心」が根付くことを期待したいと思います。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	朝のあいさつ運動（児童会）、花壇の花植え替え（栽培委員会、各学年）、給食の牛乳パック収集、ボランティア（はぐろっこ）の方の読み聞かせとパネルシアターの活動、保幼小交流会（1年生）	8月	P T A 親子奉仕作業・クリーンアクション
H 26. 5. 16	山宮福祉センター見学（3年生）	9月	お年寄りへの手紙作成（3年生）
		11月	昔の話を聞く会（3年生）
		11. 14	福祉講話（4年生）
		12月	赤い羽根共同募金
		H 27. 1月	書き損じ葉書・古切手・使用済みテレホンカード収集

## 2 取り組み事例

## (1) 山宮福祉センター見学（3年生）

5月16日に見学を行いました。例年地域の学習をかねて、3年生が行くことになっています。

地域にありながら、福祉センターがどんなところか知らない子も多く、また知っていても建物の中を見学することができないので理解を深めるのに有意義な見学になりました。

陶芸や囲碁将棋、健康体操教室等があり、高齢者が自分の趣味や興味を活かして活動していることに驚いていました。機能回復室もあり、一日に150人もの利用があることも知りました。

一緒に体操教室を体験したり、高齢者と話したりして交流でき、健康に気をつけて頑張っていることがわかりました。後日、お礼の手紙を書いて届け、喜んでもらいました。



## (2) 花壇の花の植え替え（全校生徒）

学年ごとに、春と秋に花壇の花を植え替えて学校をきれいにしようと頑張っています。学校の昇降口や南館の前は、栽培委員会が行っています。

花を植え替える前には、地域のボランティアの方に土作りを行ってもらい、また、畑の土作りや2年生のサツマイモ植えなどにも力を貸してもらっています。全校児童にとって学校をきれいにしようという同じ目的で、地域の方と触れ合うよい機会となり、互いにつながり、協力しあっていく心が育ちつつあります。



## (3) 福祉講話（4年生）

11月14日に視覚障がい者の松田東さんをお招きし、4年生の児童を対象に福祉講話を行いました。

福祉講話を聴くことで、いろいろな障がいをもつ方がいることを知り、「共に生きる」社会のために自分たちはどうしたらよいのかを考え、実践に活かすための良い機会となりました。



## 3 一年間の評価と課題

今年度は児童会や環境美化委員会が中心となってボランティア活動や募金活動などを行ってきたばかりではなく、各学年においても学習の一つとして福祉講話やいのちの学習などを行うことができました。

これらの活動が、児童の人を思いやる気持ちや自分の生き方を改めて考え直す心の育成につながったと思います。これからもこのような活動や学習の機会を続けていきたいと思っています。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	・朝のあいさつ運動 ・授業前のゴミゼロ運動 ・書き損じ葉書・古切手・使用済みテレホンカード・ペットボトルキャップ・プルタブの収集 ・花いっぱい活動 ・お米をアフリカに送る活動	H 26. 8. 23	親子クリーンアクション
		10・11月	落ち葉掃き
		11. 10	福祉講話（低学年）
		11. 18	福祉講話（中学年）
		11. 26	福祉講話（高学年）
		12月	募金活動（赤い羽根共同募金、ユニセフ）

## 2 取り組み事例

本校では、総合的な学習の時間・生活科・道徳等の時間に福祉教育に取り組んでいます。年間を通して、児童会本部、生活委員会、飼育栽培委員会、今年度新設されたボランティア委員会が中心となって上記の活動に積極的に取り組むことができました。

さらに、今年度は、山梨県ボランティアセンターの武市美紀先生のご尽力により、2人の講師をお招きし、低・中・高学年に分け合計3回の福祉講話を実施しましたので、その様子を次に記述します。

## (1) 福祉講話（低学年）講師：市瀬英子さん（視覚障がい）

講師の市瀬さんには、事前の打ち合わせの時から大変明るく接していただきました。当日も明るくお話され、低学年の児童にも視覚障がい等について分かり易くお話いただきました。また、児童にとって初めて聞くことも多く、とても良い機会になりました。

## (2) 福祉講話（中・高学年）講師：仁科加代子さん（聴覚障がい）

舞鶴小学校に、聴覚障がいの方をお招きするのは初めてでした。手話通訳の方が同時通訳をされている姿は感動的でした。また、講師の仁科さんが、聴覚障がいでありながら、高校卒業まで健常児と同じ学校に通われていたことに多くの児童が感銘を受けました。一見すると障がいがあるとは思えず、素敵な笑顔が印象的でした。中・高学年の児童は、仁科さんの前向きに生きていく姿に触れ、聴覚障がいの方とのコミュニケーションの仕方や手話の方法など、多くの事を学ぶことが出来ました。



【仁科さんとコミュニケーションをとる児童】



【手話を使ってお話をされる仁科さん】

## 3 一年間の評価と課題

この事業により、障がいのある方から直接お話を伺える福祉講話を3回行うことが出来ました。本校では、多くの体験活動を取り入れ、活動を通して学ぶ事を重視しておりますが、中でもボランティア活動が大変活発であります。飼育園芸委員会を中心に、花いっぱい運動をしています。今年度は、本事業により多くの花の苗を植えることができ、玄関等には児童が育てた花が溢れ、児童の心を豊かにする一翼を担っております。

さらに、福祉講話では、視覚障がいや聴覚障がい、手話通訳の方をお招きし、障がいのある方と触れることができ、福祉のこころの醸成に繋がる大変貴重な体験の機会となりました。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ペットボトルキャップ・牛乳パック・古切手 収集・ゴミの分別 園芸活動 (中庭プランター・植え込みの手入れ)	9月	花ボランティア活動開始 (ビオラ・金魚草・ルピナス等)
H 26. 6月	花ボランティア活動開始(菊)	12月	赤い羽根共同募金活動
		H 27. 1月	書き損じ葉書・古切手収集
		3月	地域の保育園にプランター寄付

## 2 取り組み事例

## (1) 花ボランティア活動

今年度、生徒会のボランティア活動の一つとして、『花ボランティア活動』を取り入れました。

この活動は3年前からの取り組みで、日頃お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを伝えようという目的で実施しました。

活動内容は、学校で生徒が育てた花を地域の施設に寄付するというもので、今年度はなでしこ保育園、国母保育園、大鎌田保育園、梅香学園にビオラや金魚草、ルピナスなどを育てたプランターを寄贈しました。

生徒は、各施設が花でいっぱいになれば多くの人の心がなごみ、穏やかな生活が送れるはずと考え、一生懸命活動していました。

今後、この『花ボランティア活動』を更に充実させるために、関わる生徒を増やし、全校的な活動へと発展させる(今年度は生徒会役員と園芸委員)ことや、プランターの数を増やし、寄付できる施設の数を増やしていく、などが課題としてあげられました。



## (2) ボランティアボードによるボランティア活動への協力依頼

本校の福祉に関する掲示板は3年前に購入したボランティアボードを利用し、放送活動と絡めて全校生徒の福祉に対する意識向上を図りました。

1階の図書室前の壁面にあるこのボードは、朝は登校する生徒で賑わい、昼休みは図書室を訪れる生徒などの目にとまる場所です。このボードによって、生徒の足がこのボードの前で止まる姿を見ることがようになりました。今後、掲示の仕方などの工夫や放送委員との協力によって様々な福祉活動の告知や協力依頼などを全校生徒にしっかりと伝えられるようにしていきたいと思えます。

## 3 一年間の評価と課題

本校のボランティア活動は決して盛んではありませんでしたが、今年度の事業を受けて今後のボランティア活動の活性化に弾みのつく1年となりました。

「ボランティアの心は大切」と口では言うものの、実践につなげることは難しいと思います。しかし、「はじめの一步」を踏み出すことで、その心は確実に成長し、つながっていきます。今年度、踏み出した一步を来年度以降の歩みに確実につなげていき、思いやる心・支え合う心を育てていきたいと思えます。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H 26.5月～ H 27.2月	アルミ缶・ペットボトルキャップ収集	12.7	チャレンジボランティアフォーラム2014 (有志参加)
7月～2月隔月	ベルマーク収集、集計	12.13	歳末助け合い・海外助け合い街頭募金
7.20	ボランティアサマーフェスティバル (有志参加)	H 27.1・16	地域環境美化活動(雨天中止)
11.25	福祉講話(1年生)	2月	書き損じ葉書・古切手収集

## 2 取り組み事例

例年通りボランティア委員会を中心に、毎月第3水曜日にアルミ缶・ペットボトルキャップの収集活動を行いました。今年は正確なデジタル秤<sup>はかり</sup>を購入し、クラスごとに収集結果を記録・掲示・発表することで活性化を図りました。

1年間でアルミ缶は270kg、ペットボトルキャップは272kgで、1個分に換算すると116,960個収集でき、JCV(世界の子どものワクチンを日本委員会)と震災被災県に寄付をしているエコキャップ推進協会に引き取ってもらうことができました。

また、1年生の福祉講話では盲導犬ユーザーの吉川勝彦さんにおいていただき、視覚障がいをお持ちの方の生活の様子や接するとき気をつけたいことなどをお話しいただきました。生徒にとっては自分自身の生活を見直す機会ともなりました。

さらに、今年度は学友会(生徒会)活動の一環として、ベルマーク収集も行いました。教室においたウォールポケットに種類分けして収集し、年間で5804.6点が集まりました。来年度以降さらに意識が高まることを期待します。



## 3 一年間の評価と課題

すでに定着している例年の活動を活発化するためにどのような工夫をしたら良いか、ボランティア委員と学友会で考えることから始めました。目に見える形でわかるよう、収集結果をグラフにし、ベルマークの収集方法を絵入りのお便りにしたりすることで活性化を図りました。また、今年度は山梨県ボランティアセンター主催の各種イベントに有志を募って参加する機会を持ちました。参加した生徒は、異なる年代の活動から多くを学び、「次の機会も参加したい」という思いを持つことができたようです。全校で見ると、生徒によってボランティアに対する思いは様々ですが、活動が少しずつ広がって浸透していくよう、今後も継続していきたいと思えます。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	地域清掃、あいさつ運動、ペットボトルキャップ収集	12月	赤い羽根共同募金協力
H 26. 7. 20	ボランティアサマーフェスティバル運営ボランティア参加	12. 7	チャレンジボランティアフォーラム2014参加
10月	手足の不自由な子供を育てる運動に協力	12. 13	歳末助け合い・海外助け合い街頭募金活動参加
11月	アフリカ飢餓救援活動協力	12. 23	障がい者支援施設「麦の家」訪問
		H 27. 1月	書き損じ葉書・古切手収集

## 2 取り組み事例

## (1) 地域清掃

生徒会が企画し、放課後を使い、クラス毎に日を替え、地域のゴミ拾いや落ち葉拾いなどを行いました。大通りに面している道路には、たばこの吸い殻が多く落ちていて、拾うのが大変でした。住宅地は、それぞれの家庭できれいにしているようで、あまりゴミは落ちていませんでしたが、秋には落ち葉がたくさんあり、生徒は一生懸命清掃を行いました。



## (2) 障がい者施設「麦の家」訪問

毎年、地域にある障がい者施設を吹奏楽部が訪問し、演奏を披露し、交流を深めています。今年はクリスマス直前に訪問し、「きよしこの夜」やコンクール、学園祭で披露した曲などを演奏し、その後、入居者と一緒に話し、楽しく交流をすることができました。



## 3 一年間の評価と課題

地域清掃やペットボトルキャップ収集、あいさつ運動など年間を通して全校で取り組みました。また、今年度は昨年度よりも、山梨県ボランティア協会が企画する活動や街頭募金活動などにたくさんの生徒が参加し、ボランティアについての知識を得るとともに経験を積むことができました。

来年度も地域との繋がりを大切にし、ボランティア活動を更に進め、思いやる心を育てていきたいと思えます。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ペットボトルキャップ・ミックスペーパー収集、あいさつ運動、環境委員による朝の清掃活動、花の苗植え等環境美化活動	11月	アフリカ救援米活動への協力
H 26. 6月	福祉講話（1年生）	12月	歳末助け合い募金への協力
7月	ペットボトルキャップ収集取り組み強化期間 富竹クリーンデイ	H 27. 1月	古切手・使用済みテレホンカード・書き損じ葉書・ベルマークの収集

## 2 取り組み事例

## (1) 福祉講話

本校では毎年6月の学校公開日に、1年生を対象に福祉講話を実施しています。今年度は車イスで生活をおくる小林修さんを講師に迎え、障がいを持つ方への接し方や、ご自身の体験談を交えた生徒の心に響く話をいただきました。



## (2) 各種環境活動

日ごろから自分たちの学校やその周辺をきれいに保とうという意識を持つために、環境委員が中心となって、年間通して定期的に朝のゴミ拾いや落ち葉掃きなどの清掃活動を行いました。また季節に応じて放課後に花の苗植えなども行いました。朝は生活委員によるあいさつ運動も加わり、活気ある学校、地域の雰囲気をつくることができました。



このほか、縦割りグループによるボランティア清掃活動である富竹クリーンデイを7月に実施しました。

## (3) 各種収集活動

ペットボトルキャップ、救援米、募金など各種収集活動を実施し、生徒会本部を中心とした呼びかけの成果もあり、例年以上に成果をあげることができました。

## 3 一年間の評価と課題

これまでのボランティア活動の流れを踏まえつつ、本年度の生徒会テーマに沿って、それぞれの内容と質を高めることができました。来年度に向けては、縦割りでの清掃活動の回数を増やすなどさらに活発化させることや収集活動において期間に余裕をもって呼びかけをすること等、校内での更なる強固なボランティア組織づくりをすすめていきたいです。

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	募金活動、古切手・使用済みテレホンカード・ ペットボトルキャップ収集	11月	赤い羽根共同募金活動
H 26. 7月	老人介護施設銀杏荘訪問	12月	老人介護施設銀杏荘訪問 歳末たすけあい募金活動
7. 2	登校時のゴミ拾い活動	H 27. 1月	福祉委員会活動報告の掲示物作り 書き損じ葉書・古切手収集

## 2 取り組み事例

### (1) 銀杏荘訪問

福祉委員会の活動として、毎年7月と12月の2回、地域にある「銀杏荘」を訪問しています。30人ほどで訪問し、クイズを出題したり、クリスマスカードを渡したりしています。高齢者の方々との交流活動後、施設の清掃を行っています。普段接する機会があまりない高齢者の方々との貴重な体験になっています。



### (2) ペットボトルキャップ・古切手などの収集

1年を通して募金や古切手、ペットボトルキャップの収集を行っています。月ごとに集めるものを変えることで、活動がマンネリにならず、目的意識をもって活動できたように思います。生徒による広報活動を更に徹底することで、活動の強化をはかりたいと思います。

## 3 一年間の評価と課題

福祉委員会の活動として、各学級で呼びかけを行い、年間を通して意欲的に活動できました。どのように役立っているのかなど、多くの生徒に知ってもらうことで更に活動が盛り上がってくると思います。来年度は、広報活動に力を入れ、より活発な活動にしていきたいと思っています。

# 13 甲府市立西中学校

## 1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	ちょボラ活動（古切手・使用済みテレホンカード・ペットボトルキャップ・アルミ缶・牛乳パック・古紙収集）	11月	盲学校生徒との交流 赤い羽根共同募金
H 26. 9月	地域の高齢者との交流 盲学校生徒との交流	12月	歳末助け合い募金
		12. 10	福祉講話（1年生）
		H 27. 1月	書き損じ葉書収集
		2. 27	福祉講話（2年生）

## 2 取り組み事例

### （1）ちょボラ活動

福祉委員会を中心に、各学期に1～2回「ちょボラウィーク」を設け、「全校生徒が気負わずできて、ちょっと気軽な気持ちでボランティアに参加しよう」を合い言葉に、ペットボトルキャップなどの収集を行っています。これらの収集により、外国の子ども達にワクチンを打つ費用を送ることができたり、自分たちの使うトイレトペーパーを購入したり、学園祭で地域の高齢者を招待した時のプレゼントをつくる費用を捻出して福祉活動への意識を高めることができました。



### （2）福祉講話①

12月10日に、盲導犬を育てている方と、盲導犬を使っている視覚障がいのある方を講師に招き、盲導犬を育てる時の苦労や意義、盲導犬との生活、盲導犬の必要性などを話していただきました。生徒は、健常者が注意しなければいけないことや盲導犬の素晴らしさを学び、視覚障がいのある方や盲導犬への理解が深まりました。



### （3）福祉講話②

2月27日に、障がいを持った方々と強い関わりをもっている田崎輝美さんを講師に招き、「障がい者と健常者が共に生きる社会を目指して」をテーマに様々なお話を聞かせていただきました。健常者が知らないこと、障がいを持っている方達が健常者に知ってほしいことなどを教えてくださいました。電動車椅子体験やアイマスク体験の時間も作ってくださり、生徒は自分たちの生活との違いに実体験を通して気づくことができました。



## 3 一年間の評価と課題

今年度も年間を通して計画的に福祉教育活動を行うことができました。通年で行っている活動も少しずつ生徒に定着してきたように感じます。体験活動を取り入れた福祉講話は、生徒たちにとって、とても有意義なものとなりました。障がいを持った方や高齢者との交流を通して、自分たちにできることを考えたり、思いやりの気持ちを持って接することが大切だということを学ぶことができました。来年度もこれらの活動を継続し、さらに全校生徒に福祉の心を育てていきたいと思えます。

# 甲府市社会福祉協議会

## 地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領

### 第1 目的

少子・高齢化の進展や核家族化問題により、大人も子供もライフスタイルが多様化し、地域社会のつながりが希薄になっていると言われております。

これまで甲府市社会福祉協議会では、命の大切さや地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や、子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」を醸成するため、学校や地区社会福祉協議会を始めとする関係団体が連携して進める福祉教育の推進やまちづくりを支援することを目的として、山梨県社会福祉協議会指定による「福祉のこころ醸成事業」そして、本協議会独自による醸成事業を単年度で行ってきました。

今までの成果を踏まえ、継続的に福祉教育を推進する事業を地区社会福祉協議会と学校、その他関係団体・機関等が連携して行えるよう支援することを目的として、この要領を定める。

### 第2 実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）とする。

### 第3 推進主体

市社協が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

### 第4 事業内容

- (1) 指定期間 4月1日から翌年の3月31日まで
- (2) 指定地区社協数 1年度につき1地区社協
- (3) 実施内容

#### ①福祉教育推進委員会の設置

指定された地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し、実施内容を検討・選択、活動の企画、準備、運営、今後の展開についての検討を行う。

○委員構成案 ア 学校 イ 教育委員会 ウ PTA エ 民生委員・児童委員  
オ 自治会 カ ボランティア団体 キ 企業 ク 学識経験者  
ケ 行政 コ 地区社協 サ 市社協

#### ②学校との連携による「命の事業」の実施

#### ③地域における福祉教育の取り組み

福祉教育推進委員会が中心となり、学校や地域の関係者と連携して地域における福祉教育の取り組みを図る。

## 第5 助成の申請

地区社協は、第1号様式及び第2号様式を市社協に提出しなければならない。

## 第6 助成金の交付

市社協が指定した地区社協へ助成金を交付する。

## 第7 助成金の経理等

助成金の交付を受けた地区社協は、助成金の経理等を次により処理しなければならない。

- (1) 助成金は、その用途を踏まえて活用すること。
- (2) 助成金は、地区社協予算に計上し収支費目を明確にして会計処理すること。
- (3) 助成金の収支に係る証憑書類（振込通知書、領収書等）を整備しておくこと。

## 第8 助成金額

当該年度の予算の範囲内とする。

## 第9 実績の報告

事業年度終了後20日以内に第3号様式及び第4号様式を市社協に提出する。

## 附 則

この要領は、平成24年4月10日から施行する。

# 【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

## 相川地区社会福祉協議会

### 1 福祉教育推進委員会

委員構成	16名	(1) 相川小学校校長・教頭・教務主任・福祉担当教諭 (2) 相川小PTA会長 (3) 相川地区自治会連合会副会長 (4) 相川地区社会福祉協議会会長・事務局長・事務局次長・会計 (5) 相川地区民生児童委員協議会会長 (6) 相川地区老人クラブ連合会会長 (7) 相川地区青少年育成協議会会長 (8) 甲府市社会福祉協議会地域福祉推進課課長 甲府市社会福祉協議会地域福祉推進課北ブロック担当職員 甲府市社会福祉協議会甲府市ボランティアセンター所長
年月日	内 容	
H26.5.23	地域ぐるみボランティア活動推進事業事前打ち合わせ会	
6.11	第1回推進委員会（委員会の発足、事業計画、予算等）	
10.14	第2回推進委員会（上半期事業報告、下半期事業計画等）	
H27.2.19	第3回推進委員会（事業報告、収支決算見込み、今後の課題等）	

### 2 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施内容「命の授業」

期 日	会 場	内 容
H26.11.7	相川小体育館	<p><b>4年生：「視覚障がい者の生活と盲導犬」</b> 講 師：吉川勝彦様</p> <p>視覚障がい者の方に盲導犬と共に来ていただき、目が不自由な中での普段の生活やお仕事、また、情報や意思伝達のための点字、音声変換ソフトによるメールのやりとり、盲導犬との関わり等についてお話を聴きました。また、同行の日本盲導犬協会の方からは飼育や訓練等についてのお話を聴き、盲導犬との歩き方や指示の出し方等についても勉強しました。</p> 
11.19	相川小体育館	<p><b>4年生：「身体障がい者としての暮らし」</b> 講 師：穴水公一様</p> <p>障がいのある身として生まれ育った生い立ちや想い、仲間からかわれたことの経験、障がいを背負いながらの日々の様子についてのお話や、これまでの暮らしの中で経験してきた事、今の子どもたちに出来る事、また詩を作ることを楽しんでいる事など色々なデータや図等をプロジェクターを使用しスクリーンに写しながら話をしていただきました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが当たり前と思っていることに大変な苦勞をしながらも一生懸命に生きている実体験のお話だったので、とても心に残りました。</li> <li>・つらいことに負けず、自分の力で乗り越えようと努力しながら暮らしていることに感心しました。</li> </ul> 

H27.1.28	相川小体育館	<p><b>2年生：「生命の授業」</b>  <b>協力者：甲府市福祉部健康衛生課職員</b></p> <p>生活科「成長のアルバム作り」の学習導入段階として、お腹の中での成長の様子、自分が誕生し、大切に育てられてきたことを実感できるようにと、保健師から体内での成長の過程、身重な母親の動作の大変さ、へその緒の役割、赤ちゃんの抱っこの方法や重さなど、実物大の模型や実際の様子などを交えながら説明をしていただきました。</p> <p>子どもたちも成長の変化を目で確かめたり、赤ちゃんの人形を抱いたりしながら、自分もこうして生まれ、これまで成長してきたかけがえのない命の持ち主であり、自分だけでなく友達もみんな大切な存在であると実感する場となりました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お腹の中で赤ちゃんが大きくなっていく様子が模型でよくわかった。お腹の大きいお母さん役の先生の動作を見て、「大変だなあ」と思ったり、赤ちゃん人形を抱いてみて、重くてびっくりした。</li> </ul>
----------	--------	--

### 3 関係者が連携しての事業

期 日	会 場	内 容
H26.6.4	相川小プール	<p><b>6年生：「プール清掃活動」</b>  <b>協力者：相川地区青少年育成推進協議会会員・地区社協役員</b></p> <p>前年5学年時のプール閉鎖時期に散布した、EM菌の効果を確かめながら清掃活動を行いました。水の変色や底面、壁面などの汚れは見られるものの、ブラシや雑巾などで擦り、拭き取る事でぬめりも残らずきれいになることを実感し、みんなで力を合わせながら清掃活動に取り組みました。</p>
11.13	相川小プール	<p><b>5年生：「環境浄化とプール清掃」</b>  <b>協力者：相川地区青少年育成推進協議会会員他1名</b></p> <p>はじめに環境浄化という事で、小さな生き物たちが棲むこの地球の自然環境を守ることにについて考え、その一環として水をきれいにする事の大切さ、図表やパネル、EM菌等の事例を学びました。</p> <p>後半はプールに移動して、少し青みがかってきた水の様子を観察し、このまま来シーズンまでおいておくとうなるか、水質や汚れの状況、6年時の清掃活動の事を想定しながら、四囲から手分けし、協力して一斉にEM菌の液を投入しました。</p>
11.18	相川ケアセンター	<p><b>相川小福祉委員会：「福祉施設訪問」</b>  <b>協力者：相川地区地域福祉活動推進員</b>  <b>協力団体：相川ケアセンター</b></p> <p>委員会活動で作った作品や手紙を持って、福祉委員と合唱部員29名で相川ケアセンターで介護を受けている方々を訪ね交流慰問活動を行いました。集会室に集まった方々に手紙や作品を手渡し、日頃の様子等をお聞きしながらふれあいの時を過ごし、最後に全員で親しまれている合唱曲を披露し、皆さんに楽しんでいただきました。ニコニコしながら一緒に声を合わせている高齢者も多く、子どもたちも喜び、みんなで共に楽しいひと時を過ごす事が出来ました。</p>
12.9	尚古園	<p><b>相川小福祉委員会：「福祉施設訪問」</b>  <b>協力者：相川地区民生児童委員</b>  <b>協力団体：尚古園</b></p> <p>先生、地区民生委員の方と、福祉委員5名で尚古園を訪問しました。入所している方々はすでにロビーに集まっており、委員会活動で作ってきた手紙や絵などを一人一人に贈りました。学校での様子等を話すと、高齢者の方々からも昔の小学校の思い出話がいろいろ出て、楽しい交流の場となり、最後は全員と握手をしてお別れしました。</p>

期 日	会 場	内 容
H27.1.27	相川小体育館 ほか	<p><b>1年生：「昔の遊び体験とふれあい給食会」</b>  <b>協力者：相川地区老人クラブ連合会会員23名</b></p> <p>生活科「季節と遊ぼう」をテーマに、子どもの頃に夢中で遊んだ昔の遊びを、地域の老人クラブの方々に教えてもらいながら体験しました。遊びの種類は主として物や用具を使ってのお手玉、メンコ、けん玉、竹とんぼ、あやとり、ビー玉、こま、竹馬で、全員が1グループ10人の7グループに分かれ、一つの遊びを約10分で交代しながら8種類全ての遊びを体験し、地域の方々との交流をしました。活動の始めと終わりの会では、学級委員が進行を務め、感想発表やお礼の言葉など自主的な活動の体験も出来ました。</p> <p>また、活動終了後、指導して頂いた老人クラブの方々と一緒に学校給食を食べ、お話を聞くなどして更に交流を深めることが出来ました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りの人たちにいろいろな遊びをおしえてもらっておもしろかった。</li> <li>・あまりやったことがない遊びなのでなかなか思うようにできなかったが、また教えてもらいできるようになりたい。</li> <li>・うまくできたりできなかったりしたが、友達と競争したり楽しかった。</li> </ul> 
1.29	相川小展示室 ほか	<p><b>3年生：「さぐってみよう昔の暮らし」</b>  <b>協力者：相川地区社会福祉協議会・老人クラブ連合会2名</b></p> <p>自分たちの今の様子を比べ、おじいさんやおばあさんたちが生まれ育った頃の地域の様子はどうかをテーマに、「地域資料室にある昔使っていた道具について」、「地区の昔の様子、生活の仕方や子どもたちの遊び等について」2クラス交互に地域の方にお話をいただきました。</p> <p>昔の道具については、今から60年～70年前の田畑やワラ作業の道具も多く、その使い方やその頃の仕事の様子等聞いたりしながら昔の人達の苦労やワラを使っての物づくりなど、工夫や努力についても学びました。</p> <p>昔の様子では、地図や写真で一面の田園地帯が住宅地になった様子を見ながら、農業中心の生活、米、麦、養蚕の仕事、朝から夕、夜なべ仕事、大家族での暮らしぶりを知り、牛馬から動力へ等々、今の生活ぶりと比べると想像も出来ないようなお話を聞きました。</p> <p>子供達にとっては驚いたり関心したりの貴重な機会となりました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の「昔の暮らし」の学習を教えてくださいとも参考になりました。昔の暮らしで一番びっくりしたのは、昔は周りがすべて田んぼで家は少なく、あちこちに集まっていたことでした。田植えは、皆が助け合っていたり、「藁」でいろいろな物を作り使っていたことや、「お蚕さん」も飼っていたこと、昔は川で遊んだり、遊び道具も自分達で作ったと聞いて、今はとても便利になったと思いました。</li> </ul>

#### 4 その他の事業

期 日	会 場	内 容
H26.6.24	相川小体育館	<p><b>5・6年生：「高齢者疑似体験セットによる高齢者疑似体験」</b>  <b>協力者：相川地区社協執行部・市ボランティアセンター職員</b></p> <p>福祉週間における福祉委員会活動として、4年生以下は点字器、白い杖の体験活動を実施し、高学年（5年生、6年生）は、高齢者疑似体験セットを装着し、その不自由さや辛さ等を疑似体験する学習を実施しました。各クラス4名のグループを編成、それぞれグループごとに、グローブ装着、水注ぎ体験、足ギブスを装着し踏み台登り体験、白内障眼鏡や耳あて装着、文字書き体験等手分けして体験し、その様子をお互いに話し合い、障がいを持った方や高齢者の行動を考えたりする良い機会となりました。</p> <p>※高齢者疑似体験セットは市社協、帝京看護学院より借用</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な体験ありがとうございました。お年寄りとは僕たちと違って、自由なことが少しずつ無くなっていくことが、眼鏡や手袋で感じられました。これからは、お年寄りを見たら親切にしようと思います。</li> <li>・私は体験してみてもお年寄りの大変さがわかりました。          体は重く、耳は聞こえにくく、目は見えづらくなったりと大変でした。おじいちゃん、おばあちゃんはとても苦労していると改めてわかりました。</li> </ul>
11.9	相川福祉センター	<p><b>相川小合唱部：相川地区高齢者との「ふれあい食事会」</b>  <b>協力団体：相川地区社協関係団体</b></p> <p>この活動は、合唱部を中心にしての事業でした。事前に地区の一人暮らしの高齢者について知り、皆で手分けして全員に渡るよう励ましの手紙を書きました。当日、参加部員31名は学校で練習した後、手紙等を持って「高齢者ふれあい食事会」会場の相川福祉センターへ向かい、舞台へ上がりました。会場には食事を終え、子どもたちの合唱を待つ高齢者がたくさんいました。合唱は子どもたちの進行で行われ、素晴らしい合唱に全員が魅了されていました。何曲も披露した後、舞台を降りて励ましの手紙を全員に手渡しました。その後は高齢者とペアになりビンゴゲームを楽しみました。最後に一緒に歌おうと再び舞台上がり、懐かしい歌で高齢者も共に歌い盛り上がりました。子どもたちと楽しそうに語り合う姿や歌声に身を乗り出し、感激して涙ぐむ姿も見られ、子どもたちによって感動的な食事会になりました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は交流を終えて沢山の事を感じました。合唱では「私たちの歌で感動を伝えたい」と思いながら心をこめて歌いました。それが伝わったのか中には涙を浮かべている人もいました。皆さんに手紙を渡したり、ビンゴを楽しんだり、お話したり、一緒に歌ったりと、とても楽しかったです。</li> </ul> <p>沢山の方が「素敵な歌をありがとうね」や「涙が出てしまったよ」などのお言葉をくださり嬉しかったです。この間、友達の家遊びに行ったら、近所の方が来て「昨日歌った子いる？おばあさんたちがね、ありがとう来年も来てほしいって言ってたよ、ありがとうね」といってくれて嬉しかったです。</p>

H27.3.27	相川小校舎内 クラブ室	<p><b>あすなろ学級児童：「あすなろ学級お楽しみ交流会」</b>  <b>協力者：相川地区民生児童委員</b></p> <p>親の仕事の関係等で、放課後すぐ自宅に帰れない児童等を対象とした放課後児童クラブ員を、春休みの一日（クラブが校舎内にあるため）交流会を開催しました。</p> <p>当日は、担当の地区社協民生児童委員全員と27名の児童が参加、調理とお楽しみ会班に分かれ、調理班はカレー作り、お楽しみ班は本の読み聞かせ、太極拳の実演と体験、野菜ビンゴゲーム、合唱など共に楽しい時間を過ごしました。</p> <p>お昼は、手作りのおいしいカレー、これには学級指導員や地区社協役員等も加わり、食事をともにしながら大勢の人達と交流をしました。今回で3回目の交流訪問ですが、今回は「地域ボランティア活動推進事業」の一環でもあったので、地区社協関係者や学校長はじめ福祉担当教員等大勢の方に参加していただきました。</p> <p>★児童の感想（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもとは違う人たちと大勢でゲームや歌などで楽しかった。</li> <li>・太極拳で女の人が刀を持ちながら踊るのを見てびっくりした。でもかっこよかった。</li> <li>・特別に作ってくれたカレーがとてもおいしかった。おかわりしてたくさんいただきました。</li> </ul>
----------	----------------	--

## 5 活動推進を通しての成果と課題

- (1) 地域の方々とふれあう良いきっかけの場となりました。このような場や体験は、子どもたちが地域で生きて行く、また、育っていく上で大きな意義があると考えます。その意味では、地域の方が先生となって教える等、子どもたちにとっては、身近な存在になったことは、地域と学校が連携しての教育環境づくり、子どもたちにとってはふるさとづくりという面からも、大きな成果がありました。
- (2) 子どもたちが、身を持って体験している方から貴重なお話を聞いたり、専門知識を持った方からわかりやすくお話を聞いたり、模型や疑似体験などで経験の幅を広げたり、考えを深めたりと、机上や教室だけでは得難い学習経験の場となりました。
- (3) 当地区には、自治会連合会等と全校児童が隔年毎実施する「小正月行事どんと焼き・獅子舞」がありますが、それらとも一体となって、地域との関わりの場が広がり、学校と地域との連携強化に繋がる良い機会となりました。
- (4) 課題は、地域指定での活動推進の主旨をどう活かし今後の活動につなげていくか。そのための学校との連携の窓口を地域にどのように設立組織するか、経費負担や地区内でのボランティアの確保等、有識者、技能体験保持者等のリストアップなどの支援体制の構築等多く残りました。

# 甲府市ボランティアセンターの紹介

## ◇甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で活かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

## ◇運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

## ◇ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

## ◇活動の基盤づくりの援助

- ・ ボランティア・NPO団体への支援
- ・ 高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ ボランティア活動機材の貸し出し  
(車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど)
- ・ 小・中・高校の福祉教育学習への支援
- ・ 登録ボランティアグループ等の会議や活動の場としてボランティアビューローの貸出し
- ・ ボランティア活動中の万一の事故に備えて各種保険への加入窓口



### ◇ボランティア活動の情報収集と情報提供

- ・ ボランティア情報紙「甲府市ボランティアだより」の発行（年2回）
- ・ ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・ 「ホームページ」や「まごころ（こうふ社協だより）」での情報の提供
- ・ 「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

ホームページアドレス：<http://www.kofu-syakyo.or.jp/>

甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセスしてください。

### ◇ボランティアの育成・研修講座の開催

- ・ 福祉への理解、知識を深めるための各種ボランティア講座の開設  
(講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします)

- ◇古切手・牛乳パック・ペットボトルキャップ・不要入れ歯等の収集の支援  
ボランティアセンターで取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



# 甲府市ボランティアセンター事業の紹介

## ◇ふれあいチャレンジフェスタ (中・高校生と障がい児・者ふれあい交流会)

チャレンジフェスタは、障がいのある方もない方も、共に楽しい1日を過ごすことを目的に毎年開催しているイベントです。主に障がいのある方は、日頃の練習の成果を舞台上で発表し、中学生・高校生には、自分たちで企画した内容（おもちゃ作り・わなげなど）でブースの運営を担当していただいています。ステージを見たり、ブースで一緒に遊んだり、1日中楽しむことのできるイベントです。



## ◇ボランティア交流会・ボランティア博

甲府市ボランティア団体連絡協議会、甲府市内大学交流ネットワーク、甲府市社会福祉協議会の三者共催によるボランティア活動の啓発イベントを毎年開催しています。ボランティア団体や大学生が日ごろのボランティア活動の成果の発表を行い、ブースを設けて工作コーナーなどで参加者と交流をします。



# 福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者（車いす使用）……歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者（盲導犬同伴）……目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者（手話）……耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いてのコミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体……環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体……被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者……障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等（障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動）

# 高齢者疑似体験セットの紹介!! (高齢者の体と心を体験してみよう!)

## ◇目的

### 1 高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のため、かすんで見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

### 2 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

### 3 バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



【高齢者疑似体験セット装着】



【高齢者疑似体験セット】

福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集  
(市社協指定実践校・指定地区社協)

—平成26年度—

平成27年7月 発行

社会福祉法人

甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

〒400-0857 山梨県甲府市幸町15-6

TEL・FAX 055-223-1061

E-MAIL:k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金配分金により作成しました。